

鹿児島医療センター

病院基本理念 良質の医療を病む人の立場に立って提供し国民の信頼に応える病院を目指します

病院紹介 当院は、鹿児島市（人口約60万人）のほぼ中央に位置した、呼吸器と整形外科を除いた準総合病院です。2次医療圏を離島を含む鹿児島県として、また、熊本、宮崎を含む広域医療圏を対象に診療しています。提供する診療サービスは、心臓大血管疾患、脳卒中、がん治療を診療を主としています。

これら診療を患者と家族の目線に立った、分かりやすく質の高い医療を地域の医療機関と連携・機能分担しながら提供しています。また、質の高い医療従事者の育成のために、医療従事者の基礎・生涯教育を推進しています。さらに、地域・国立病院機構ネットワークと協力しつつ、臨床研究を推進し医療の質の向上に貢献しています。

当院ならびに薬剤部のHPのURLを示します。併せてご覧ください。

当院：<https://kagomc.hosp.go.jp/>,

薬剤部 <https://kagomc.hosp.go.jp/section/yakuzai/>

【施設概要】2023.7.1（データは2022年度実績）

1. 所在地 〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町8番1号
2. 特徴 循環器基幹医療施設・地域がん診療連携拠点病院・脳卒中専門施設・エイズ拠点病院・地域医療支援病院・臨床研修指定病院・医療被曝低減施設・肝疾患診療連携拠点病院・病院機能評価認定3rdG:Ver.1.1, DPCII 群病院
3. 診療科 25 診療科
【外科系】外科・消化器外科・心臓血管外科・脳神経外科・婦人科
泌尿器科・耳鼻咽喉科・皮膚腫瘍科/皮膚科・歯科口腔外科
【内科系】内科・循環器内科・血液内科・腫瘍内科・消化器内科
糖尿病/内分泌内科・小児科・脳/血管内科・腎臓内科・精神科
【外科系・内科系以外】麻酔科・病理診断科・放射線科
リハビリテーション科・救急科・眼科
病床数 410床（一般）；9病棟
4. 薬剤師数（定数：18名）
薬剤部長1名，副薬剤部長1名，主任7名（治験主任1名含む）
薬剤師9名，助手7名
5. 主な業務
(ア)調剤 入院89,111枚/年，外来38,949枚/年（院外処方率82.4%）
(イ)注射 入院10,107枚/年，外来8,438枚/年

(ウ)薬剤管理指導件数	9,273件/年(772件/月)
(エ)無菌製剤処理料	1;4,986件/年(うち閉鎖式使用454件/年),2;1,915件/年
(オ)外来腫瘍化学療法診療料	1;2,561件/年,2;0件/年
(カ)病棟薬剤業務実施加算件数	加算1:21584件/年,加算2:6548件/年
(キ)病棟薬剤業務 実施病棟数	加算1:8病棟,加算2:3ユニット;ICU, HCU, SCU
(ク)がん患者指導料ハ	27件/年
(ケ)連携充実加算件数	148件/年
(コ)チーム活動	ICT/AST, NST, RST, 緩和ケアチーム, 褥瘡対策チーム, 口腔ケアチーム, 糖尿病チーム

6. 特徴的な業務

<研修施設等>

医療薬学会医療薬学指導薬剤師1名, 医療薬学会がん指導薬剤師1名が在籍していること等により, 学会等から以下の研修施設認定を受けており, 専門薬剤師の育成, 薬学生実習, 研修を行なっています。

- ◆日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師制度研修施設(基幹施設 2021年1月～)
- ◆日本医療薬学会がん専門薬剤師制度研修施設(基幹施設 2022年1月～)
- ◆日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度研修施設(基幹施設 2022年4月～)
- ◆日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業認定研修施設(暫定施設 2021年4月～)
- ◆薬学生長期実務実習受け入れ施設

薬剤部門の実務としては, 中央業務である医薬品の管理・供給, 調剤, 院内製剤, 抗がん剤の無菌調製, マスに対するDIに加えて, 患者個別にサービスとなる, TDMによる投与設計, 個別DI, 入院・外来患者(薬剤師外来)への服薬指導, 手術等のための入院前患者支援, 病棟薬剤業務(持参薬含めた入院時服薬計画処方支援, 検査支援, 総合処方監査, 投与ルート・配合変化等のチェック, 副作用モニタ, PMDへの副作用報告, 医薬品副作用被害救済制度申請の支援など), 臨床研究・治験のサポートなど医療の本質である対人業務を行っています。これら業務のうち, 対物的業務である医薬品のピッキング, 錠剤の一包化パックからの抜錠, 持参薬の鑑別の下準備, 注文, 払い出し等のほぼ全てを薬剤師の監督下で薬剤助手が行い, 薬剤師が患者ケアに注力でき

加えて, NST, ICT, AST, 緩和, RST, 褥瘡などの医療チームでの活動, 患者さん向けの各種教室, 医療安活動のほか院内各種委員会で活動しています。

保険薬局を含めた医療施設と協働・連携した医療サービスを提供するために, 当院外来でがん化学療法を受けている患者さんに対しては, 当院薬剤師から「外来化学療法薬剤管理情報提供書」を交付しています。ホームページで公開しているがん薬物療法レジメン情報と合わせて薬物療法の協働管理を進めております。

入院治療を受けた患者さんには、「薬剤管理サマリー」を患者さん同意のもと文書で交付しております。これにより入院時薬物療法に引き続いて、外来においても当院の医師と保険薬局等薬剤師が、協働連携し薬物療法を管理することを進めています。

<教育・育成活動>

実務実習指導薬剤師の在籍の下、毎年 4-7 名の薬学部長期実務実習生を受け入れています。実習内容は、コアカリキュラムに準拠した上で、必要、状況に応じて医師を含めた他の医療職の体験型実習も取り入れています。加えて、鹿児島県病院

薬剤師会

会員施設としての薬剤師育成活動、生涯研修活動へ積極的に参画しています（各種委員会、理事、研修会ファシリテーター等）。

また、当部門には医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師 1 名、がん専門薬剤師・指導薬剤師 1 名が在職しており、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師制度研修施設、がん専門薬剤師制度研修施設（次年度申請予定）、薬物療法専門薬剤師制度研修施設（次年度申請予定）、日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業認定研修施設（申請中）の認定が今年度から次年度中が見込まれており、認定・専門薬剤師の育成に取り組んでいます。

毎年、全国規模の各種学会・病院薬剤師会・国立病院機構主催の県内外の研修会、研究会、学術集会などへ職員を派遣して技術研鑽の機会を設けています。

さらに、国立病院機構九州グループ病院の特徴的な研修として、入職後 5 年目くらいまでの薬剤師を対象として、グループ内の勤務先外の施設へ 3-5 日間派遣し、業務を経験する特定技能派遣研修があります。そして、これのアドバンストコースの位置づけとなる、主任薬剤師までを対象とした交換研修も行っています。この研修では、急性期病院→療養型病院に勤務する薬剤師を互いに交換して、2 週間それぞれの施設で薬剤師として勤務し研修を行います。これら研修では、勤務先以外の薬剤師との意見交換・交流を通しての人的ネットワークを広げることに加え、勤務施設とは異なる性格の病院で求められる業務・環境を「仕事」として経験することにより、医療人として求められる視野を広げることと、その後の進路や専門性を考える上での効果が期待されます。

<学術活動>

当部門では日常業務の改善や得られた疑問に根ざした研究の実施を進めております。毎年、全国規模の医療薬学、臨床医学関連の学会、そして国内・国際誌での論文として公表しています。学会参加のための旅費、論文掲載にかかる費用等は病院

として支

援されます。

□2022 年度学会発表

第 63 回日本神経学会学術集会（東京，現地/web 開催）

- ▶ 神経筋難病患者に対する薬学ケアの必要性に関するパイロットスタディ
鈴木寛人，津曲恭一，阿部香澄，鶴賀叶女，渡嘉敷崇，山形真一

第 24 回日本医療マネジメント学会学術総会（神戸，現地/web 開催）

- ▶ 薬剤師業務のタスクシフトによる効果とシフト先の助手への訓練の評価
西村尚芳，谷口潤，尾之江剛樹，山形 真一

第 32 回日本医療薬学会年会（高崎，現地/web 開催）

- ▶ 免疫チェックポイント阻害剤による甲状腺機能障害に関する解析
鳥山陽子，大原義正，谷口潤，山形真一
- ▶ 入院前支援としての写真付き手術・検査前休薬説明シートの導入
濱崎翔平，谷本憲哉，谷口潤，尾之江剛樹，山形真一

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022（仙台：現地/web 開催）

- ▶ HEC-CCR 適応患者における PBPM 効果
鈴木寛人，築田晃直，平田亮介，仲本敦，河崎英範，津曲恭一，山形真一

□論文 2022 年掲載

- ▶ Fujimoto, A, Koutake, Y, Hisamatsu D et al.

Risk factors indicating immune-related adverse events with combination chemotherapy with immune checkpoint inhibitors and platinum agents in patients with non-small cell lung cancer: a multicenter retrospective study.
Cancer Immunol Immunother, 2023, doi: 10.1007/s00262-023-03408-4

- ▶ 高城沙也香，鳥山陽子，江崎瞳ら.

末期心不全患者に対するモルヒネの使用状況調査.
日本病院薬剤師会雑誌，58，1157-1163(2022)

- ▶ 処方情報の受付業務マニュアルの運用と評価
津曲恭一，杉尾由希子，大窪典子ら
九州薬学会雑誌，76，35-38（2022）

□総説，解説，その他 2022 年掲載

- ▶ 西村尚芳，
薬剤助手へのタスクシフティング項目のための訓練と成績
医療の広場，62，23-27(2022)

7. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○

自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	○
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	○
その他	
自動調剤棚	○
抗がん剤調製手順解析システム	○

※有：○，無：×

<病院目標>

テーマ「働き方改革とやりがい」

1. 業務の効率化（勤務時間管理）と職員満足度の向上（プラス思いやり）
2. 経営の向上（患者数確保）
3. 感染管理の徹底
4. 顧客満足度，サービスの向上（顧客とは患者・救急隊・紹介医療施設等）
5. 教育・研修・研究の充実

<薬剤部門の 2023 年度目標>

- ◆安全で安心できる薬物療法をできるだけ多くの患者さんに提供する
- ◆教育・育成・技術向上を意識し実行する
- ◆制度・診療報酬・病院が目指すこと・社会の求めることを把握して業務を行う
- ◆実務に根ざした研究・開発・工夫を進める
- ◆健全で健康な暮らしの上に良質な業務が成り立つことを意識して仕事を行うこと
- ◆人財確保に対応すること

2. 教育・育成・技術向上を意識し実行する

- ① 認定・専門薬剤師の資格取得
- ② 学会発表、論文
- ③ 薬学生長期実務実習の受け入れ，鹿児島県病院薬剤師会会員施設としての薬剤師育成活動，生涯研修活動への参画

3. 制度・診療報酬・病院が目指すこと・社会の求めることを把握して業務を行う

- ① 薬剤管理指導の継続
- ② 退院時薬剤情報管理指導・退院時薬剤情報連携加算の維持
- ③ 病棟薬剤業務実施加算 1・2，病棟業務実施加算該当業務の維持
- ④ 後発医薬品の採用推進・バイオ後続品の使用
- ⑤ タスクシフティング

⑥ ポリファーマシー

⑦ フォーマュラリ

4. 実務に根ざした研究・開発・工夫を進める

① PBPM

② 薬を安全に管理するための支援（処方箋・病棟控え・患者シートの表示）

5. 健全で健康な暮らしの上に良質な業務が成り立つことを意識して仕事を行うこと

① 適切・妥当・健全な労働

② 労務管理